

## 2021 メディアプランニング論 6/9 課題

「大学の対外的な広報に関わる印刷物の課題」として私は大学の2021年の大学案内のパンフレットに注目して考え、長野大学のホームページのように文字の情報を過度に詰めこんでいるせいで目的の情報を探しにくいという点が挙げられると考えた。

大学案内の主目的は「長野大学に入学したいと思ってもらうこと」であり、主なターゲット層は大学に入学したいと思う受験生や入学生予備軍、そしてその保護者の人などがあげられる。その層が大学案内に求める大きなものは「大学で何ができるか」という情報である。

今の大学案内のデザインは確かに学部ごとに分けられ、イラストなどを交えて学部の理念などが紹介されておりぱっと見た感じは分かりやすく見え、そこを見た人が「自分がしたいことがこの学部ならできそう！この学部に興味がある！」と思い大学に興味を持ってもらうことはできると思う。

しかし、いざ学部ごとの部分を見ると、写真付きで分かりやすくぱっと目に入るのは「こんなことを先輩はしています！」のような情報ばかりでどんな授業やゼミがあるのかなどは探しづらく、この案内を読んでもターゲット層の人々に自分がしたいことはどのように実行できるのかというビジョンが見えないなど感じられてしまうだろう。さらに情報をつめるうえで仕方ないことではあるが全体的に細かい文字ばかりで見にくく読む意欲があまり沸かないようになっている。これらのことから情報を見つけにくく見辛い今の大学案内では、ターゲット層の人々に理念などを読み興味をもってもらえるところまではできるが、それだけにとどまり長野大学に入学したいという気持ちを持ってもらうのは難しいと考えた。